

フランス語の移動様態動詞 *marcher* の 終結性に関する通時的研究

武本 雅嗣

1. はじめに

言語には、主要な事象 (main event) と共事象 (co-event) を一連の事象として概念化した「事象合成 (event conflation)」を表現するために、主要な事象を動詞で表す言語と衛星 (不随要素) で表す言語があり、前者は「動詞枠付け言語 (verb-framed language)」、後者は「衛星枠付け言語 (satellite-framed language)」とされている。Talmy (1985, 1991, 2000) によって提唱されたこの言語類型論の観点から言うと、ゲルマン語の英語は衛星枠付け言語、ロマンス語のフランス語は動詞枠付け言語ということになる。たとえば、移動の様態と経路を統合して一つの文で表す場合、基本的に、英語では移動の経路は移動様態動詞 (manner-of-motion verb) に付随する前置詞や副詞によって表されるが、フランス語ではそれは経路動詞 (path-conflating verb) を主動詞として表され、様態のほうは副動詞 (converb: フランス語ではジェロンディフ) や前置詞句で示される (様態は明示されないこともある)。英語とフランス語では事象合成の表現方略が違っているため、次のように英語でフランス語的な構造をとると、また逆にフランス語で英語的な構造をとると、不自然になったり意味がまったく変わってしまったりすることがよく指摘されている。

- (1) a. The bottle floated **into** the cave.
b. # La bouteille a flotté **dans** la grotte. (守田2011a) (「洞窟に入った」という有界的な読みは不可)
- (1') a. La bouteille est **entrée** dans la grotte en flottant.
b. ?*The bottle **entered** the cave floating. (Croft, et al. 2010)
- (2) a. The singer danced **onto** the stage.
b. # Le chanteur a dansé **sur** la scène. (「ステージに上がった」という有界的な読みは不可)
- (2') a. Le chanteur est **monté** sur la scène en dansant.
b. ?The singer **went** on(to) the stage dancing.

フランス語では、(1b) や (2b) のように、非終結的 (atelic) な活動動詞である移動様態動詞は概して衛星枠付け言語的構造では有界的 (bounded) な事態を表せないわけがあるが、一部の移動様態動詞は非有界的 (unbounded) な事態だけでなく有界的な事態も表すことができる。次のようなフランス語の文は英語同様本質的に両義的である。

- (3) a. The ball rolled **in** the box. (cf. The ball rolled **into** the box.)
 b. La balle a roulé **dans** la boîte.
 (4) a. The child jumped **on** the bed. (cf. The child jumped **onto** the bed.)
 b. L'enfant a sauté **sur** le lit.

このことは、(1b) の floter 'float' や (2b) の danser 'dance' のような移動様態動詞とは異なり、(3b) の rouler 'roll' や (4b) の sauter 'jump' のような移動様態動詞は完全に非終結的な動詞というわけではないということを意味している。このような両義的な動詞に関しては、方向性の有無を対格と与格の使い分けによって区別することができなくなったゲルマン語の一つである英語は基本的にその区別を単純前置詞 (in, on) と複合前置詞 (into, onto) に頼っているので、複合前置詞を用いることによって同じ構造のまま様態と経路が合成された意味であることを明確にすることができる。しかしながら、同様にラテン語にあった格を失うとともに、経路や方向を包入した接頭辞動詞 (prefixed verb) の多くを受け継がなかったロマンス語の一つであるフランス語はその術を持っていない¹。それゆえ、フランス語では、終結性 (telicity) がもっと低い移動様態動詞、つまり終結点をもっと表しにくい移動様態動詞は、英語のような衛星枠付け言語的構造では移動の終結点を示すことができないのである。

実際、次のように、フランス語の最も基本的な移動様態動詞 marcher 'walk' は衛星枠付け言語的構造で着点句をとることはできない。

- (5) a. Mary **walked to the library** to return a book.
 b. *Marie a **marché à la bibliothèque** pour rendre un livre.

marcher がこのように有界的な事態を表せないことは先行研究でも指摘されており、そこで挙げられている例に関してはまったくそのとおりである。しかしながら、古い文献や文学作品では、この動詞が着点句をとっている事例が時折見受けられる。中世のフランス語には様々な移動様態動詞の経路表現があったことを指摘している Troberg (2011) から、移動先の場所に対して前置詞 à が用いられている例と、後の時代にはむしろ sur が使われるようになる国・地方に対して en が用いられている marcher の例を引用する。

- (6) *le duc marcha droit au pont de Vie Seiche*
 the duke marched straight to.the bridge of Vie Seiche
 "the duke marched straight to the Vie Seiche bridge"

(Bouchart, *Grandes chroniques de Bretagne*, 1514, 420; DMF2009)

¹ たとえば、ラテン語の ambulare 'walk' は前置詞 + 対格名詞の着点句をとっていた。また、ラテン語には adnare 'swim to' (< ad- + nare) や tranare 'swim across' (< trans- + nare) などの接頭辞動詞があった。

- (7) *Tantost après le conte de Salbry **marcha en Beaulce** et print Yenville*
soon after, the count of Salsbury marched in Beauce and took Yenville
“Soon after, the count of Salsbury marched into Beauce and took Yenville”

(Tringant, *Commentaire du “Jouvencel”*, 1477-1483, 276; DMF2009)

これらの実例を見ていくつか疑問が浮かぶ。まず、移動様態動詞 *marcher* は英語の *march* に相当する意味で用いられているが、基本義である *walk* の意味でも着点を *à* で表示できたのだろうか。また、*marcher à N* に介在している *droit* ‘straight’ は *marcher* の方向的 (directional) な意味を補完する役割を担っていたのではないだろうか。さらに、このような *marcher* の終結的な用法はいつ頃まであったのだろうか。そして、そもそもなぜ *marcher* は衛星枠付け言語的構造で用いられにくくなったのだろうか。

そこで、これらの疑問を解くために、最初に現代のフランス語における移動様態動詞 *marcher* の終結性と前置詞 *à* の経路性について検証したうえで、フランス語の文献の大規模データベース Frantext を利用して、着点または目標点への空間移動を表す *marcher à N* の使用の歴史的変遷を調べることにした。本研究では、その調査結果に基づいて意味論的分析を行い、*marcher à N* の衰退につれて副詞 *droit* の使用が漸増したこと、*à* (/en) から *sur* への前置詞の交替が起こった場合と起こらなかった場合があることを指摘し、それらの誘因・原因について考察する。そして、かつて常用されていた *marcher à N* が急激に消失していった要因の解明を目指す。

2. フランス語の *marcher* の終結性と前置詞 *à* の経路性

数々の先行研究によって明らかにされているとおり、フランス語では、経路や方向を語彙化している *entrer* ‘come in’, *sortir* ‘go out’, *arriver* ‘arrive’, *aller* ‘go’, *venir* ‘come’, *monter* ‘go up’ などの経路動詞は当然着点句と結び付くが、移動様態動詞に関しては、*courir* ‘run’, *sauter* ‘jump’, *grimper* ‘climb’, *glisser* ‘slide’, *rouler* ‘roll’ 等を除くと、*marcher* ‘walk’, *errer* ‘wander’, *déambuler* ‘stroll’, *tituber* ‘stagger’, *boiter* ‘limp’, *conduire* ‘drive’, *pédaler* ‘pedal’, *nager* ‘swim’, *ramer* ‘row’, *flotter* ‘float’, *danser* ‘dance’ などは経路を示す何らかの要素がなければ着点句を伴いにくい、または伴えない (see Zubizarreta & Oh 2007, 守田 2008, Kopecka 2009, Geuder 2009)。

2.1 *marcher à N* は有界的事態を表すのか？

まず、経路動詞でも、着点表示の前置詞は、英語では非直示的経路を語彙化している *arrive* には *at* (国などの場合は *in*) が、直示的経路を語彙化していて方向性を表す *go* には *to* が用いられるのに対して、フランス語では *arriver* ‘arrive’ でも *aller* ‘go’ でも区別なく *à* (女性名詞の国などの場合は *en*) が用いられることを確認しておく。

経路動詞

- (8) a. John { **arrived at / went to** } the station. (cf. John { **arrived in / went to** } Italy.)
b. Jean { **est arrivé à / est allé à** } la gare. (cf. Jean { **est arrivé en / est allé en** } Italie.)

では、英語の移動様態動詞 run と walk にはある終結的用法が、それらに相当するフランス語の courir ‘run’ と marcher ‘walk’ にあるかどうかを検証しよう。

移動様態動詞

- (9) a. John { **ran to / walked to** } the station.
b. Jean { **a couru à / #a marché à** } la gare.

英語では移動様態動詞 run も walk もまったく問題なく to によって着点を示すことができるが、フランス語では、courir ‘run’ は、動詞枠付け言語的構造でジェロンディフにするのが無標ではあるものの (Jean est allé à la gare en courant.)、主動詞として着点句 à N をとることも可能なのに対し、marcher のほうはそれが不可能である²。(9b) の courir の場合の à la gare の「駅」は到達地点と解釈できるが、守田 (2011a) も指摘しているように、marcher の場合のそれは活動地点としか解釈できない。もちろん marcher の場合でも、次のように、de N と à N の併用により経路が明確にされれば有界的事態を表すことができるが、à N 単独ではまったく容認されない³。

- (10) a. John { **ran / walked** } **from the hotel to the station** in ten minutes.
b. Jean { **a couru / a marché** } **de l’hôtel à la gare** en dix minutes.
(11) a. John { **ran / walked** } **to the station** in ten minutes.
b. Jean { **a couru / *a marché** } **à la gare** en dix minutes.

ただ、そもそも marcher à la gare が方向性の解釈を許さないのだから、これでもって marcher à N は有界的な事態をまったく表さないということにはならない。marcher à N が有界的な事態を表すのかどうかを確かめるためには、この形式の実際の使用例について検証する必要がある。そこで、現代のフランス語では頻度が低い用法ではあるが、次の3種の実例 (12a) (13a) (14a) に、所要時間を表す前置詞句を付け加えることができるかどうかインフォーマントに尋ねた。すると、所要時間が付いた例は見たことがないと断ったうえで、(12b) と (13b) は容認できるとし、(14b) は容認できないとした⁴。それぞれの場合

² 方向を示す vers や限界点を示す jusqu’à の使用は可能である。cf. Jean a marché { vers / jusqu’à } la gare.

³ courir については Katz (2006)、marcher については Zubizarreta & Oh 2007 を参照。

⁴ (14a) はそもそも後続の comme à une ennemie がなければ今のフランス語では容認されない用法である。

の *marcher* の意味を日本語で付しておく。

N が場所の場合 (「行進する」)

- (12) a. Ainsi donc, quand l'heure sonna, il lança son satyagraha du sel (mars 1930) et **marcha à la mer** avec ses disciples les plus proches [...]
(Habachi, René. *Pèlerin de la non-violence. Le Courrier de l'UNESCO*, XXII, 10. (1969))
(https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000058309_fre)
- b. Ainsi donc, quand l'heure sonna, il lança son satyagraha du sel (mars 1930) et **marcha à la mer en quatre semaines** avec ses disciples les plus proches [...]

N が無生物の場合 (「(歩いて) 行く」)⁵

- (13) a. Elle se leva, **marcha à la fenêtre** et appuya son front brûlant à la vitre froide pour se réveiller tout à fait.
(S165 | GARAT Anne-Marie - *Dans la main du diable* (2006))
- b. Elle se leva, **marcha à la fenêtre en un instant** et appuya son front brûlant à la vitre froide pour se réveiller tout à fait.

N が有生物の場合 (「向かって行く」)

- (14) a. Elle **marcha à elle** au contraire, comme à une ennemie.
(L676 | VAN DER MEERSCH Maxence - *Invasion 14* (1935))
- b. ??Elle **marcha à elle en un instant** au contraire, comme à une ennemie.

このことから、*marcher* à N が有界的な事態を表し得るのは、N が場所名詞の場合と無生名詞の場合で、N が有生名詞の場合には有界的な事態は表し難いということがわかる。動詞 *marcher* の意味について言うと、「行進する」という意味と「(歩いて) 行く」という意味で à N をとっている場合は終結的なこともあり得るが、「向かって行く」という意味では終結的ではあり得ないということである。そして着目すべきは、これらの用法の *marcher* は、終結的・非終結的にかかわらず、一様に様態の意味が希薄化しているという点である。

2.2 前置詞 à は経路を示すのか？

次に、動詞が伴う場合だけでなく名詞が伴う場合にも、英語とフランス語の間には着点を示す前置詞の使用に関して違いがあることを確認したうえで、フランス語において前置詞 à が使用可能になる場合の要因を探っていく。

⁵ 日本語に訳すと「歩いて行く」または単に「行く」となるが、この用法の場合様態の意味は薄れているので、便宜上「(歩いて) 行く」としておく。この用法の例は今日のフランス語では極めて稀ではあるが、3.3で示すとおり、18世紀から20世紀にかけてはさほど珍しくなかった。

まず、次のように、英語の前置詞 *to* とは違い、フランス語の前置詞 *à* は単独では乗り物の行先や道路の到達先を示すことができないことを確認しておく。

- (15) a. This is the bus (**going**) **to** the airport.
b. C'est le bus *(**allant**) **à** l'aéroport.
- (16) a. This is the road (**leading**) **to** the airport.
b. C'est la route *(**menant**) **à** l'aéroport.

英語では経路動詞を用いるとむしろ冗長だが、フランス語ではそれが不可欠である。前置詞だけで名詞を修飾するには、次のように別の前置詞を用いるしかない。

- (17) a. This is the **train** { **to / for** } **Lyon**.
b. C'est le **train** { ***à / pour** } **Lyon**.
- (18) a. My son had an accident on his **way to school**.
b. Mon fils a eu un accident sur le **chemin** { ***à / de** } **l'école**.

このように、英語とは違い、名詞修飾の場合も経路を表す動詞を必要とすることからも、フランス語の前置詞 *à* は経路を示さないということがわかる。

そして、動詞派生名詞の場合も、着点句 *à N* と結び付くかどうかには、やはり経路の語彙化が関与的である。たとえば、フランス語では、経路動詞 *accéder* の名詞形 *accès* は経路を包入しているので *à N* ととれるが、移動様態動詞 *marcher* の名詞形 *marche* は経路も方向性も包入していないので基本的に *à N* ととれない。

- (19) a. **Access to the beach** is restricted.
b. L'**accès à la plage** est limité.
- (20) a. The hotel is five minutes' **walk to the beach**.
b. L'hôtel se trouve à cinq minutes de **marche** { ***à / de** } **la plage**.
- (21) a. His **walk to the door** was slow.
b. Sa **marche** { ***à / vers** } **la porte** était lente.

しかしながら、名詞 *marche* が「歩き」ではなく「行進」の意味ならば、動詞 *marcher* が「行進する」の意味の場合と同じように、前置詞 *à* の使用が可能になる。

- (22) a. Gandhi's **march to the sea**
b. La **marche** { **à / vers** } **la mer** de Gandhi (cf. (12a))

前節の最後で、着点ないし目標点への徒歩移動を表す *marcher à N* では *marcher* の様態の意味が薄れていることを指摘したが、その名詞形 *marche* についても

同じことが言えるわけである。ここで、名詞 *marche* にしても動詞 *marcher* にしても、à N と結びつきやすい場合がもう一つあることを付言しておく。それは、到達先が具体的な場所であれ抽象的な状態であれ、それぞれ「歩み」「歩む」といった比喩的な意味で用いられる場合である。

(23) a. *La marche à l'étoile*

b. Les contemporains de Dreyfus ont **marché à l'étoile** sur cette route sanglante qui mène le héros de Vercors de l'admiration de la République universelle à Drancy-Auschwitz.

(Vajda, S. *Maurice Barrès*. (2000))

(24) a. *La marche à la Terreur*

b. Robespierre **marchait à la Terreur** par une autre route que celle de l'utopie: celle où le conduisait paradoxalement la conscience du caractère utopique de son projet.

(Gueniffey, P. *Histoires de la Révolution et de l'Empire*. (2011))

このような比喩用法は実際の空間移動を表しているわけではないが、方向性は表している。結局、*marcher* à N が今でもかろうじて使われるのは、*marcher* の意味から様態が捨象され、かつそこに方向性が残留している場合なのである。こういった現象は、移動様態動詞の経路動詞化とみなすことができる。なお、動詞 *marcher* よりも名詞 *marche* が à N と結び付きやすいのは、動詞派生名詞の未完了性によるものと考えられる。動詞 *marcher* と à N の親和性へのアスペクトの関与については最後に少し言及する。

以上のことから、今のフランス語では、移動様態動詞 *marcher* ならびにその派生名詞 *marche* が着点または目標点を表示するために経路を示さない前置詞 à をとり得るのは、基本義の「歩く」「歩き」という意味ではなく、とくに「行進する」「行進」、「歩む」「歩み」といった意味の場合であることが明らかになった⁷。次章では、*marcher* à N の中世以降の使用例を提示して、通時的に意味分析を進めていく。

3. *marcher* à N の通時的分析

現代のフランス語では *marcher* が de 起点句を伴わずに à 着点句をとることは稀であるが、冒頭で示したとおり、とくに中世から近代にかけてのフランス

⁶ 比喩が関与している現象ではないが、移動様態動詞の経路動詞化については、ドイツ語の *gehen* の用法拡張を主体化 (subjectification) によるものと指摘した Takemoto (2010) を参照されたい。

⁷ *marcher* à l'ennemi に対する *la marche à l'ennemi* は可能だとしても、「(人間・生物への) 立ち向かい」という意味では *la marche* à N は極めて生産性が低い。

語ではそれはごく普通のことであった。例示と分析に入る前に、着点または目標点を前置詞によって表示する *marcher* の意味について、詳細なものではないが、*Grand Robert* と CNRTL の記述を示しておく。

Grand Robert :

- 5. *Marcher à, vers, sur* s'avancer dans une direction
- 6. En parlant de troupes, se diriger sur ordre vers un lieu

CNRTL (Centre National de Ressources Textuelles et Lexicales) :

- 2. [Dans un cont. gén. pol. ou milit.] Se diriger vers un but (lieu, personne) dans un dessein généralement précis (d'hostilité, de conquête, de menace)

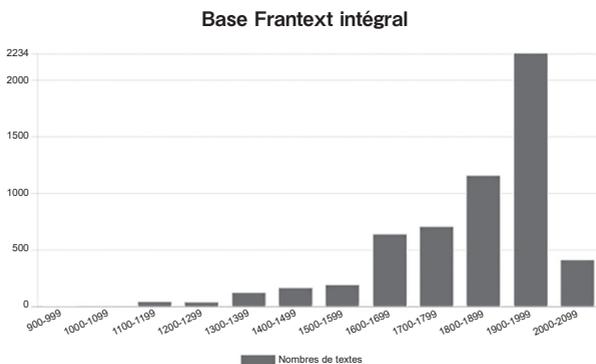
a) **Marcher sur**

- [Le compl. désigne une pers.] S'avancer vers elle de façon menaçante.
- [Le suj. désigne des troupes armées]

b) **Marcher à, contre.** S'avancer au devant (de l'ennemi).

(<https://www.cnrtl.fr/definition/marcher>)

では、2.1で示したのと同じように、名詞 N の素性によって、N が場所の場合、N が有生物の場合、N が無生物の場合の3つに分類し、*droit* の有無別の用例数を示したうえで、実際の使用例を挙げて説明していく。なお、Frantextを用いた今回の調査では、*marcher à la mort / au combat / à la victoire / au péril / à la faillite* などのように N が状態名詞の場合や *à l'étoile / à son but* などのように場所名詞であっても比喩的用法の場合は除き、場所や存在への人間または生物の徒歩での物理的空間移動を表している場合だけを対象とした。参考までに、Frantextの2000年代までの総テキスト数のグラフを示しておく。



3.1 Nが場所の場合

まず、marcherが前置詞を介して場所を着点としてとっている場合からみていこう。戦闘的行進を表す場合に都市や国や地方を着点として表示する前置詞は、19世紀になるとàやenよりもsurのほうが優勢になっていき、20世紀以降はほぼ完全にsurが取って代わった。先に、19世紀と20世紀のmarcher sur Nの使用例を1例ずつ挙げておく⁸。

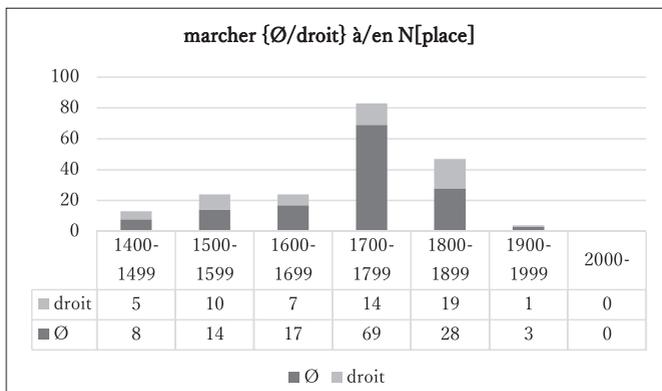
(25) [...] il corrompt son armée, se déclara pour la fronde, et **marcha sur Paris**.

(M395 | LAS CASES Emmanuel, comte de - *Le Mémorial de Sainte-Hélène* : t. 1 (1823))

(26) Bonaparte avait déjà tranché le noeud gordien. Après la chute de Mantoue, il **marcha sur Rome**, mais sans intention d'aller bien loin.

(P342 | LEFEBVRE Georges - *La Révolution française* (1963))

しかしながら、Nが場所の場合、18世紀以前は、marcher sur Nよりもmarcher à/en Nのほうが圧倒的に多く使われていた。対比するとよくわかるので、à/enの使用数とsurの使用数の100年単位の集計結果をグラフで示す。以下のグラフでは、droitを伴っていない例の数とそれを伴っている例の数は色分けしてある⁹。



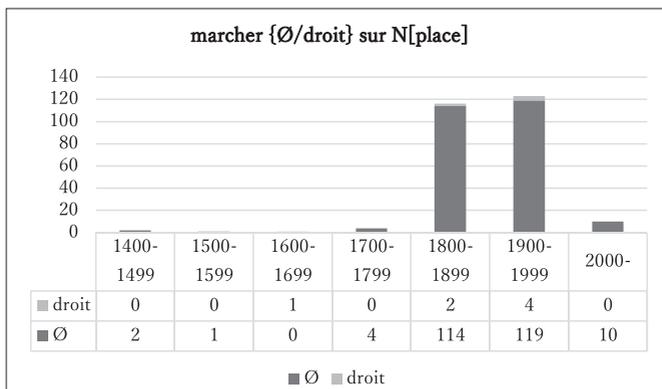
グラフ 1

⁸ Frantextからの引用例ではないが、次のように場所が普通名詞の事例もある。

La foule, où l'on comptait beaucoup de bourgeois, envahit l'*Hôtel des Invalides* pour y chercher des armes ; puis elle **marcha sur la forteresse de la Bastille** pour y prendre également des fusils et des canons.

(Isaac, J. *De la Révolution de 1789 à la Révolution de 1848* (1969))

⁹ “droit”の項目には tout droit も含まれているが、tout まで付いた例は非常に少なかった。



グラフ2

では、以下に à または en が着点表示の前置詞として使われていた例を古いものから順に少し挙げる（太字強調・太字斜字強調は本稿筆者による）。なお、極めて稀ではあるが、(29) のように、この用法の完了形で助動詞 être が用いられている例もみられた。

- (27) Si **marcherent les Romains** bien avant **es Gaulles**, tirans droit à Langres qui est vers la fin de Bourgoine, pour attendre le roy Artur et oÿr de ses nouvelles.
(S185 | BOUCHART Alain - *Grandes croniques de Bretagne*, t. 1 (1514))
- (28) Si mist pié à terre et les rassembla en bonne et grosse bende ; puis **marcha droit à la cité de Porcestre** et le assiegea à tous gros ingins disposez lors à prendre places, lesquelx engins l'on appeloit belins ou moutons.
(S185 | BOUCHART Alain - *Grandes croniques de Bretagne*, t. 1 (1514))
- (29) Or, est il que le sieur d'Annebault, après la resolution de la guerre, **estoit marché en Piemont**, ayant huit mille Suisses, six mille hommes de pied françois, sans la garde des places, et six mille Italiens, quatre cens hommes d'armes et deux mille chevaux légers.
(E619 | DU BELLAY Martin - *Mémoires de Martin Du Bellay* (1556))
- (30) Avec lesquels Andronic **marcha droit à Constantinople**.
(R776 | VIGENÈRE Blaise de - *L'Histoire de la décadence de l'Empire grec, et établissement de celui des Turcs, comprise en dix livres par Nicolas Chalcondyle* [trad.] (1577))
- (31) Nostre armée **marcha au Quesnoy** sans ordre de bataille, nous y trouvastes deux mille hommes qui venoient de France pour nous joindre.
(R275 | BUSSY-RABUTIN Roger de - *Les Mémoires de messire Roger de Rabutin, comte de Bussy* : t. 2 (1696))

- (32) S'il **avoit marché à Rome** après sa dernière victoire, il auroit prévenu cet inconvénient.
(P238 | MABLY Gabriel de - *Parallèle des Romains et des Français par rapport au gouvernement* : t. 2 (1740))
- (33) Le duc **marcha tout de suite à Roze**, et l'emporta en deux jours.
(N758 | DUCLOS Charles PINOT - *Histoire de Louis XI* : t. 2 (1745))
- (34) Elles avaient répandu l'alarme dans Paris, quelques feuilles énergiques firent courir aux armes, soixante mille citoyens de tout état **marchèrent à Versailles**, malgré les efforts des municipaux, du général et de l'état-major.
(N262 | MARAT Jean-Paul - *Les Pamphlets (1790-1792)* (1792))
- (35) Le général Augereau **marcha à Castel-Franco** et de là à Trévis.
(M395 | LAS CASES Emmanuel, comte de - *Le Mémorial de Sainte-Hélène* : t. 1 (1823))

また、都市や国や地方以外に、(36) のように構造物に対して進撃していく場合にも用いられていたし、(37) のように人間だけでなく動物が群れをなしてそこに進攻していく場合にも使われていた。

- (36) Et, quant il fut à pié, il se vint joindre avec le Jouvenel et **marchèrent droit à la première barrière**, où il y eust des coups donnez.
(5602 | BUEIL Jean V de - *LE JOUVENCEL*, T.2 (1461))
- (37) Mes douze chiens, lâchés en même temps, **marchèrent tout droit**, le nez au vent, **à la bauge du sanglier**, sous la conduite du vieux Lumino, qui avait aidé Henry dans son travail de la matinée.
(P456 | CHAMPIGNEULLE Bernard - *La Chasse, Vénérie, Fauconnerie* (par La Hêtraie) (1945))

さらに、戦闘的でない行進を表す用法もあった。いわば大名行列のような行進の場合にも *marcher à* は用いられていた。今なおかろうじて残っている (12a) のような用法もこれに類するものである。

- (38) Le roi **marcha à la chapelle** en bas ; il étoit accompagné de tous les chevaliers de l'ordre.
(Q799 | DANGEAU Philippe de COURCILLON, marquis de - *Journal* : t. 14 : 1711-1713 (1713))
- (39) Ces actes étant signés, le czar **marcha à la cathédrale** [...]
(N966 | VOLTAIRE - *Histoire de l'Empire de Russie sous Pierre le Grand* : t. 2 (1763))

以上のような例を観察すると、*marcher à N[place]* が表す事態は、軍事的・非軍事的にかかわらず「隊列を組んで進んで行く」という点で共通していることがわかる。認知的な観点から言うと、行進は集団的または随伴的な移動である

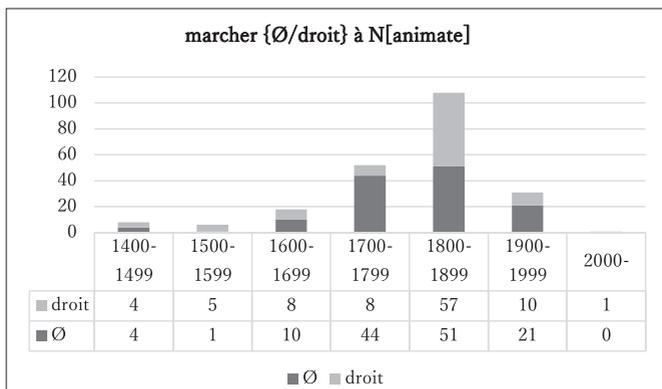
ため、個々の人間の歩行の様態は前景的ではない。そのような事態を描写するために用いられる *marcher* は、本来持っている様態の意味が捨象されている。2.2で指摘したように、衛星枠付け言語的構造でこの移動様態動詞が使われていたということは、それが経路動詞化していたとみなすことができる。「行進する、進攻する」という意味で用いられていた *marcher* は、大体18世紀の半ば頃までは方向性を十全に表していた。だからこそ、その *marcher* は、経路を示さない前置詞 *à* によって着点または目標点を表示できていたのである。

本節の最後に、この用法における副詞 *droit* の介在について説明しておく。まず、グラフ1でこの用法の最盛期の18世紀と衰退期の19世紀を比べると、明らかに衰退期に *droit* を伴う割合が増えていることが見て取れる。このことは、*marcher* の意味から方向性が失われていったことを物語っている。かつて *marcher* は *s'avancer* や *se diriger* のように方向性を担っていた。Troberg (2011) が指摘しているように、中世のフランス語では移動様態動詞でも衛星枠付け言語的構造がよくとられていたわけであるが、*marcher* も、意味によっては位置変化をも表し、経路動詞のごとく振る舞っていた。ところが、典型的シフトが進む過程で *marcher* の意味から方向性が失われていくにつれて、方向を表す *droit* に依拠するようになっていったのだと考えられる。そして、*marcher* から方向性がすっかり消失し、とうとう *droit* に頼ることすらできなくなった結果、この用法が廃れてしまったということなのであろう。次に、グラフ1とグラフ2を比べると一目瞭然だが、*marcher à* と *marcher sur* は同じような意味を表すのに、*droit* との共起については大きく異なっている。19世紀以降に使用数が爆発的に増えた *marcher sur* に *droit* が伴うことがほとんどないのは、*marcher sur* は「(領域に) 踏み込む」という捉え方を表しているので¹⁰、そもそも方向性はあまり関係がないからであろう。両者のこの用法の意味の違いについてわかりやすく言うと、*marcher* が方向性を持っていた時代に使われていた *marcher à* は軍事的な文脈では「～に進攻する」というような意味だったのに対して、それが方向性を失った後の時代に使われるようになった *marcher sur* はむしろ「～に侵攻する」に近い意味になっているのである。

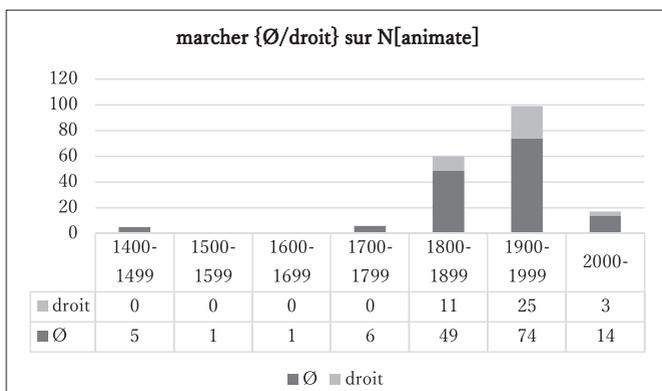
3.2 N が有生物の場合

人間・生物を着点ないし目標点として前置詞 *à* で表示して「向かって行く、立ち向かう」という意味を表す *marcher* の用法も古くからあった。まずは、この場合の *marcher à* N と *marcher sur* N の100年毎の使用数のグラフを示す。

¹⁰ この用法の *marcher* の意味については、守田 (2008) も、辞書的な説明としては「踏み込む」ということになると指摘している。



グラフ3



グラフ4

グラフ3とグラフ4を見比べれば明らかだが、この用法の前置詞も、19世紀まではまだ sur よりも à のほうがよく使われていた。しかし、20世紀になると à の使用は急減し、形成が逆転した。その結果、次のように、今日ではもはやほとんど sur しか使われなくなっている¹¹。

- (40) Il se leva avec lenteur, **marcha droit sur Sandoval**, le contourna et quitta la pièce.
(E268 | JONQUET Thierry - *Moloch* (1998))
- (41) M. Normat, le visage empourpré, quitta son fauteuil et **marcha sur Aubinard** avec un air menaçant.

¹¹ ただし、向かって行く相手が l'ennemi 「敵」 の場合に限っては、20世紀以降でも sur の使用数が3例なのに対して à の使用数は14例もあることから、昔からずっと使われ続けてきた marcher à l'ennemi 「敵に向かって行く」 は今のフランス語でも慣用表現として残っているとと言える。

ただ、surにしても昔はまったく使われなかったわけではない。わずかではあるが、15世紀にはすでに次のような使用例がみられる。

- (42) Mais ce noble et chevalereux duc Charles, vostre grant pere, par grant couraige, **marcha sur ses ennemys** et par deux fois desloga le duc de Loraine et sa puissance hors de leurs logis [...]

(6501 | La Marche Olivier de - *Mémoires*, t.1 (1470))

では、問題の「(有生物)に向かって行く、立ち向かう」という意味で使われていた *marcher à N* の使用例を挙げる。当初からとくに戦闘で敵対する相手に向かって行くことを表すために用いられていた。

- (43) Et, quant le roy d'Angleterre, qui n'estoit pas du tout rompu et lui estoit bien demouré encores deux mille hommes, vit messire Thomas de Percy si petitement acompaignié, **il marcha droit à lui** et le desconfist et mist à mort [...]

(5602 | BUEIL Jean V de - *LE JOUVENCEL*, T.2 (1461))

- (44) L'inca répond qu'il ne recevra pour amis les déprédateurs de son empire, que quand ils auront rendu tout ce qu'ils ont ravi sur leur route ; et après cette réponse **il marche aux espagnols**.

(N976 | VOLTAIRE - *Essay sur l'histoire générale et sur les mœurs et sur l'esprit des nations* : t. 3 (1756))

- (45) Il s'approcha vivement du comptoir et de la jolie fille, comme **il eût marché à l'ennemi**.

(M686 | STENDHAL - *Le Rouge et le noir* (1830))

- (46) [...] la permission accordée, il jeta en l'air sa montera, comme pour montrer qu'il allait jouer son va-tout, et **marcha au taureau** d'un pas délibéré, cachant son épée sous les plis rouges de sa muleta.

(R633 | GAUTIER Théophile - *Voyage en Espagne* (1843))

- (47) Sept représentants du peuple, sans autre arme que leurs écharpes, c'est-à-dire majestueusement revêtus de la loi et du droit, s'avancèrent dans la rue hors de la barricade, et **marchèrent droit aux soldats**, qui les attendaient le fusil en joue.

(S793 | HUGO Victor - *Histoire d'un crime : Déposition d'un témoin* (1883))

- (48) Après cette aventure dont je fus le héros, nous **marchâmes droit à l'arrière-garde** que quelques décharges de canon n'avaient point ébranlée.

(R877 | BERNANOS Georges - *Premiers écrits* (1907))

- (49) [...] **il marcha au monstre**, et, de ses petits bras ridicules de pourfendeur d'hydre, il l'ébranla.

戦闘的でないとしても、次のように、多かれ少なかれ敵意や対抗心を抱いて相手に向かって行く場面がよく使われていた。ただ、そういう含意がないような例も少しみられる。

(50) Elle **marcha droit à son mari**.

– Je viens causer avec toi, Guillaume, dit-elle.

Elle parlait d'une voix nette et froide.

(L545 | ZOLA Émile - *Madeleine Féral* (1868))

(51) Laure Chassin s'avança vivement et, sans prendre garde au baron, sans le voir peut-être, **elle marcha droit au docteur** et d'un ton bref, affirmatif, plutôt qu'interrogatif :

– Vous êtes le docteur Barillot.

(S167 | BELOT Adolphe - *Alphonsine* (1887))

(52) Mais, comme Mme Caroline se hâtait, la Méchain **marcha droit à elle**. Sans doute, elle la guettait car tout de suite elle lui parla de Victor, en personne renseignée déjà sur ce qui s'était passé la veille, à l'œuvre du travail.

(L592 | ZOLA Émile - *L'Argent* (1891))

(53) La vieille se remit la première et balbutia, sans faire un pas :

– C'est-i té, not' fieu ?

Le jeune homme répondit :

– Mais oui, c'est moi, la mé Duroy !

Et **marchant à elle** il l'embrassa sur les deux joues, d'un gros baiser de fils.

(S811 | MAUPASSANT Guy de - *Bel-Ami* (1885))

さて、ここで、グラフ1とグラフ3を見比べてみよう。この「(有生物) に向かって行く、立ち向かう」ことを表す用法は、「(場所) に行進する、進攻する」ことを表す用法の衰退期の19世紀に最盛期を迎えており、廃れていくのが遅かったことがわかる。両用法の衰退期のずれからは次のことが読み取れる。おそらく18世紀中頃までに始まった移動様態動詞 *marcher* の方向性の喪失により、「(場所) に行進する、進攻する」を意味していた終結的用法がいち早く影響を受けたのに対し、「(有生物) に向かって行く、立ち向かう」を意味していた非終結的用法は、その影響を受けながらもとくに方向を表す副詞 *droit* の力を借りながら比較的生きながらえたのであろう。事実、世紀ごとのテキスト数の差を考慮しても19世紀にはこの用法の使用数はむしろ増加しているのだが、*droit* については、その使用数が非使用数を上回るほど多用されていた。この時代の「(有生物) に向かって行く、立ち向かう」を意味する *marcher à* と *droit* の共起率の高さは、まさに、*marcher* からの方向性の消失がそれ以前から始

まっていたことを裏付ける。

ところで、marcher sur に目を向けて、グラフ2とグラフ4を比べると、いずれの用法の場合も19世紀になると一気に使用されるようになったという点では同じだが、droit との共起割合については両用法の間に明らかな差があることに気がつく。「(場所)に侵攻する」という意味の場合はほとんど droit が用いられないのに、「(有生物)に向かって行く、立ち向かう」という意味の場合には droit が少なからず用いられている。それは、同じ marcher sur N の形式であっても、前者の marcher は終結的であり、sur が表示する踏み込む領域は隔たりのない到達点なのに対して、後者の marcher は非終結的であり、sur が表示する踏み込む相手の領域は物理的・心的に距離がある到達目標点だからだと考えられる。そこには、終結的な用法の場合の認知的焦点は到達点にあるのに対して、非終結的な用法の場合のその焦点はむしろ出発点・途中にあるということが関係していると考えられる。

3.3 N が無生物の場合

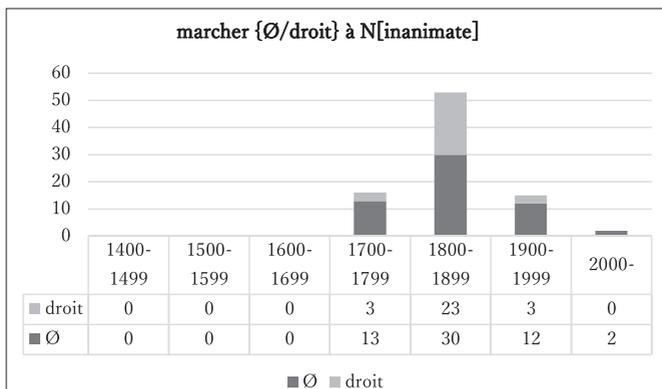
最後に、一見基本義にもっとも近い意味で用いられているように思われるものの、今のフランス語からするとかなり違和感のある用法について検証する。この場合の marcher は、日本語に訳すと「(歩いて)行く」または主に未完了アスペクトでは「向かう」となるが、様々な例を観察すると、割と制約の強い用法であったことがわかる。まず、この場合の到達点は大半がすぐ近くの対象物であった。そして、この用法が上で取り上げた2つの用法と決定的に違うのは、前置詞 à の代わりに sur が使われるようにはなっていないということである。ただ、sur の使用例もないわけではないので、極めて珍しい例ではあるが示しておく。なお、インフォーマントに確認したところ、(54)の表現は非常に不自然に思われるとの反応であった。

(54) On toqua, d'un coup brusque. Elle **marcha sur la porte** et l'ouvrit.

(L322 | POURRAT Henri - *Les Vaillances, farces et aventures de Gaspard des montagnes*. 3. *Le Pavillon des amourettes ou Gaspard et les Bourgeois d'Ambert* (1930))

では、無生の存在である対象物への徒歩での空間移動を表す marcher à について通時的に見ていこう。この用法の歴史的な特異性は、他の2つの用法よりもずっと新しい用法であるという点にある。統計結果を示したうえで使用例を挙げて説明する。

この用法の最初期つまり18世紀前半から中盤にかけてよくみられたのは、今なおとくに比喩的に使われる marcher à l'autel / au bucher / au supplice / à l'échafaud / à la potence 「祭壇・処刑台に(歩いて)行く、向かう」といった言い回しであった。



グラフ5

- (55) Il fallut obéir, et **marcher à l'Autel** :
 (N877 | LA CHAUSSÉE Pierre-Claude - La Fausse antipathie (1734))
- (56) “Il parla, dit-il, comme Socrate, et **marcha au bucher** avec autant d'allégresse que Socrate avait bû la coupe de ciguë.”
 (N974 | VOLTAIRE - *Essay sur l'histoire générale et sur les mœurs et sur l'esprit des nations* : t. 2 (1756))
- (57) le musulman zélé qui le premier annonça la loi du divin prophète, et brava les fureurs des tyrans, prit-il garde, en **marchant au supplice**, s'il étoit suivi d'autres martyrs ?
 (N754 | HELVÉTIUS Claude-Adrien - *De l'Esprit* (1758))

そしてこの頃には、今のフランス語ではありえない *marcher* の使用例もみられる。次のように離れた構造物・建造物への個人的徒歩移動の場合にも使われていた。

- (58) [...] elle **marcha** avec eux **droit au port**. Je la suivis jusqu'au vaisseau qui devoit la porter.
 (Q522 | GODARD D'AUCOUR Claude - *Mémoires turcs* : 2 (1743))
- (59) **Marchons à l'appartement de la dame**, et prévenons son réveil [...] Enguerrand arrive sans obstacle jusqu'au pied du lit de Strigilline. Alors, encouragé par le succès, aiguillonné par le désir de la vengeance, il lui porte la main au front, et en arrache avec violence le fatal bouquet de plumes.
 (Q322 | CAZOTTE Jacques - *Ollivier* (1763))

ただ、現実的には徒歩移動だとしても、言語的にはこのような *marcher* にもはや様態の意味は残っていない。なお、今でも稀に使われることのある *marcher*

à pied は17世紀末にはすでに使用されていた。

- (60) Le roi se promena tout le matin dans les hauteurs de Marly, où il fait travailler, et toute l'après-dînée il se promena dans les jardins et même **il marcha longtemps à pied**, ce qu'il n'avoit pas fait depuis sa dernière attaque de goutte.
(Q797 | DANGEAU Philippe de COURCILLON, marquis de - *Journal* : t. 7 : 1699-1700 (1700))

古形の marchier や a pie も含めて調べたが、これ以上は遡れなかったので、これが、個人の空間移動を表す marcher à pied の Frantext 所収の文献上の初出とみなされる。今回の調査によって、無生物への個人の歩行移動の様態が捨象された marcher à N の用法は中世にはなく近世になってから生じたものであることが判明したが、また、marcher à pied もそれほど古くからあったわけではないこともわかった。「(歩いて) 行く」という意味で使われる marcher à N の用法の出現が marcher à pied の出現よりも前ではなかったのは当然のことと思われる。

この用法の移動様態動詞 marcher も様態を捨象して経路動詞化したことは確かであるが、それでも、経路動詞 aller のごとく自由に場所名詞を着点としてとれるようにはならなかった。それがあまり生産的にならず短命だったのは、その直後に類型的シフトが強まって方向性の喪失が始まったため、たちまち経路動詞的に振る舞い続けることができなくなったからだと考えられる。また、用法が拡がらなかったことについては、先ほど挙げた最初期の用法が神や死がかかわる対象物に向かって行くことを描写する表現であったこともある程度関係していると思われる。実際、次のように、この用法には、殉教精神や決意や一途さ・必死さの含意があることが多い。それは、原初的な用法がそうであったからだと推察される。

- (61) Le grand jour venu, je **marchai à l'église** d'un pas si léger, qu'il me semblait que je fusse soutenu en l'air ou que j'eusse des ailes aux épaules.
(R637 | GAUTIER Théophile - *La Morte amoureuse* (1836))
- (62) L'amour a son instinct, il sait trouver le chemin du coeur comme le plus faible insecte **marche à sa fleur** avec une irrésistible volonté qui ne s'épouvante de rien.
(R707 | BALZAC Honoré de - *La Femme de trente ans* (1842))
- (63) Du coup, il n'hésita plus ; il **marcha à une porte** et y toqua.
(K878 | COURTELINE Georges - *Messieurs les ronds-de cuir : tableaux-roman de la vie de bureau* (1893))

また、そのような含意が薄くても、とくに対象がすぐ近くにある場合には、19世紀の後半でもあまり droit を伴っていなかった。marcher の意味から方向性が欠落していったのはいたものの、対象までの距離がないので droit を必要と

しなかったということであろう。

- (64) Lagache prit les clefs et **marcha** hardiment **au pupitre** du plus riche pensionnaire.
(L833 | CHAMPFLEURY - *Les Souffrances du professeur Delteil* (1853))
- (65) René-Jean **marcha à cette chaise**, la saisit et la traîna à lui tout seul jusqu'au pupitre.
(S768 | HUGO Victor - *Quatrevingt-treize* (1874))
- (66) Jean Valjean déposa Marius le long du mur sur la partie sèche du radier, puis **marcha à la grille** et crispa ses deux poings sur les barreaux [...]
(S739 | HUGO Victor - *Les Misérables* (1881))
- (67) Le formier **marcha** rapidement **à la porte entr'ouverte**.
(S793 | HUGO Victor - *Histoire d'un crime : Déposition d'un témoin* (1883))

しかしながら、とくに対象物まで距離がある場合には **droit** が多用されていた。

- (68) Mais avant de quitter, pour toujours peut-être, cette maison où je laissais mon âme, je voulus revoir Edmée pour la dernière fois. Je **marchai droit à sa chambre**.
(R785 | SAND George - *Mauprat* (1852))
- (69) Un jeune homme, enveloppé dans son paletot, descendit de la voiture, **marcha droit à la baraque** [...]
(L532 | PONSON DU TERRAIL Pierre-Alexis - *Rocambole, les drames de Paris* : t. 4 (1859))
- (70) [...] il **marcha droit à sa bibliothèque** et en toucha un des panneaux.
(M226 | VERNE Jules - *Les Cinq cents millions de la Bégum* (1879))
- (71) Or il arriva qu'une nuit Foulques, qui s'était régulièrement couché comme à l'ordinaire, se leva, ôta son bonnet, prit du linge neuf, un chandelier, sa robe de chambre, et **marcha droit**, d'un air gaillard, **à l'appartement de sa femme**. Et, arrivé là, il frappa...
(L229 | BOYLESVE René - *La Leçon d'amour dans un parc* (1902))

様態が捨象された場合に限って衛星枠付け言語的構造で用いられていた移動様態動詞 *marcher* は18世紀前半からそれまで包入していた方向性を失っていったとすれば、この用法が18世紀初頭に発生したあと19世紀に一気に *marcher à N* と *droit* との共起が増えたことも説明できる。それは、語彙の意味から方向性が消失していった *marcher* と経路も方向も示さない前置詞 *à* だけでは着点はおろか目標点も示せなくなっていったからである。やはりこの用法の場合も、移動様態動詞 *marcher* の方向性の喪失が、方向を表す副詞の必要性を高めたのである。

最後に、N が場所の場合と有生物の場合には前置詞が *à(en)* から *sur* に交替したのに対して、N が無生物の場合には *à* から *sur* への交替が起こらなかったのはなぜなのかという問いに対する答えを提示して本論を締めくくことにす

る。もちろん、無生物はいかなる場合でも着点や目標点になれないというわけではない。次のように、他の動詞ならば無生物を目標点として sur で表示できる。

(72) Trois individus armés d'un fusil ont **tiré sur la porte d'entrée**.

marcher sur が着点または目標点として無生の物体をとらないのは、この形式が表す概念とそれが相容れないからだと考えられる。つまり、都市や国などと人間や生物については「領域に踏み込む」という捉え方がなされるのに対して、製作物や対象物は領域を持たないのでそのような捉え方がなされないからである。それゆえ、marcher sur N[inanimate]は基本的に「Nの上を歩く、Nを踏む」という意味しか表さないのである。

4. まとめ

かつてはフランス語の移動様態動詞 marcher は、経路も方向も示さない前置詞 à を着点マーカーとしてとることができていた。それは大昔の話ではなく、フランス語史上かなり最近までの話である。なぜほんの一世紀半ほど前まではそのような用法があったのか、そしてなぜそれが突如として消えていったのかという疑問を抱いたことが、この問題について考えるきっかけであった。その疑問を解くために、本研究では、移動様態動詞 marcher の終結性に着目して、中世から近代にかけて使用されていた着点または目標点への空間移動を表す marcher à N について、現代になって部分的に取って代わった marcher sur N とも対比しながら意味分析を行った。統計調査に基づいた通時的な本研究により、marcher が着点または目標点を示すために前置詞 à をとれなくなったのは、時期的には18世紀から20世紀にかけてで、それは突発的で急進的な出来事であったことが明らかになった。そしてその要因は、marcher がそれまでは包入していた方向性を失ったからだと結論づけた。着点ないし目標点への徒歩での空間移動を表す marcher à N が消滅していく過程で、どの用法でも方向を表す副詞 droit が多用されるようになっていったこと、そして「(有生物) に向かって行く、立ち向かう」を意味する用法においてその傾向がとくに顕著だったことがその証左と言える。

衛星枠付け言語だったラテン語から動詞枠付け言語であるロマンス語への類型的シフトはロマンス諸語に分岐する前に緩やかに起こったとみなされてきたが、近年は、とくに分岐したあとそれぞれのロマンス諸語で一様に急激に起こったという主張がなされるようになってきている (see Troberg & Burnett 2017)。ただ、現代のフランス語に比して中世のフランス語に衛星枠付け言語的構造がよくみられることは確かであるが、ゲルマン語やスラヴ語などと比べると、かつてはフランス語も同じタイプだったとは到底言えない。たとえば、本稿で取

り上げた *marcher* にしても、様態が希薄化した意味での使用に限って衛星枠付け言語的構造をとることができていただけで、英語のように様態を完全に含んだ基本義でそれが可能だったわけではないからである。それでも、フランス語の千数百年の長い歴史のなかで、この移動様態動詞に生じた意味の変化が劇的な結果をもたらしたことは間違いない。類型的シフトの進行は、まずそれまであった *marcher* の終結的用法を、次いでその非終結的用法を急速に消滅へと向かわせたということ、そして結果的に結合する前置詞の部分的交替をもたらしたことは紛れもない事実である。

さて、*marcher* については、まだ非常に興味深い現象がある。それは、フランスでほぼ失われたその用法の一部がカナダには残っていることである。現代カナダ人作家の *marcher à N[inanimate]* の使用例を示す。

- (73) *Ovadia se leva, **marcha à la fenêtre** et regarda les troupes qui s'entraînaient dehors.*
(Robillard, Anne. *A.N.G.E.* 7 (2016))
- (74) *Lazare **marcha directement à la table**, mordit aussitôt dans le saucisson, avala son café-chicorée encore brûlant, sans lait, sans sucre, noir comme la suie.*
(Soucy, Gaétan. *Music-Hall!* (2002))
- (75) *Il a poussé la porte avec son pied, **a marché droit à la chambre**, m'a déposée sur le seuil avec douceur et a mis un bandeau noir sur mes yeux en murmurant [...]*
(Dugué, Claudine. *Poisons en fleurs* (2009))
- (76) *Elle éteignit les lumières tamisées de la pièce et **marcha à la cuisine**.*
(Pion, M. *La chapelière* (2024))
- (77) *Nous **marchions à l'école** en longeant la mer.*
(Réal-Gabriel Bujold, Jules Bélanger. *Almanach littéraire gaspésien* (1988))
- (78) *Pourtant, à part quand elle **marche à l'école**, il ne l'a jamais vue se promener seule. Elle est généralement accompagnée de son beau-père.*
(Champagne, Madeleine. *Faites pas de bruit, 'y a un mort* (2023))

このように、カナダのフランス語においては、フランスでとくに18世紀から19世紀にかけて使われていた用法がまだ生き延びているのである。とくに気になるのは、*l'école* 「学校」を着点とする最後の2例の用法である。こういった *marcher à* の使い方はフランスのフランス語では *marcher* が方向性を喪失する前に、18世紀前半から中盤にかけてわずかにみられた用法である。ただ、これらは未完了時制であるし、「通学する」という意味で用いられており、終結的な用法ではない。カナダでも *marcher à l'école* は完了アスペクトでは使いにくいようなので、カナダのフランス語で用法がさほど拡張したわけではないのである。最後に、フランス語よりも移動様態動詞の衛星枠付け言語的構造を許すスペイン語においても、カナダのフランス語と同じように、それに相当する

caminar a la escuela が専ら未完了時制では用いられることを付言して本稿を閉じることにする。

(79) Hace 28 años, una niña desapareció cuando **camínaba a la escuela**.

(Diario *El Libertador*, 2022/06/26)

'Il y a 28 ans, une fille a disparu en allant à l'école à pied.'

(Takemoto 2022)

カナダのフランス語でもスペイン語でも、「歩く」を基本義とする移動様態動詞は、「学校」だけでなく「駅」や「スーパーマーケット」などを着点として有界の事態を表すことは難しいようである。文法アスペクトが関与した、移動様態動詞の衛星砕付け言語的構造での使用についてはさらなる調査・分析を要する。

【参考文献】

- Acedo-Matellán, Víctor & Jaume Mateu (2013). Satellite-framed Latin vs. verb-framed Romance: A syntactic approach. *Probus* 25 (2). 227-265.
- Aurnague, Michel (2008). Qu'est-ce qu'un verbe de déplacement ? : critères spatiaux pour une classification des verbes de déplacement intransitifs du français. In Jacques Durand, Bruno Habert & Bernard Laks (eds) *Congrès mondial de linguistique française '08*, 1905-1917.
- Aurnague, Michel (2011). How motion verbs are spatial: the spatial foundations of intransitive motion verbs in French. *Linguisticae investigationes* 34 (1). 1-34.
- Beavers, John, Beth Levin & Shiao Wei Tham (2009). The typology of motion expressions revisited. *Journal of Linguistics* 46. 331-377.
- Croft, William, Jóhanna Barðdal, William Hollmann, Violeta Sotirova & Chiaki Taoka. 2010. Revising Talmy's typological classification of complex events. In Hans Boas (ed) *Contrastive construction grammar*. 201-235. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- Demgny, Annie-Claude (2013). L'expression du temps et de l'espace en français et anglais : perspectives typologiques sur l'acquisition des langues par l'adulte. *Langue française* 179. 109-127.
- Fábregas, Antonio (2007). An exhaustive lexicalisation account of directional complements. In Monika Bašić, Marina Pantcheva, Minjeong Son & Peter Svenonius (eds) *Nordlyd, special issue on space, motion, and result*. 165-199. (Tromsø Working Papers on Language and Linguistics 34.2). Tromsø: CASTL, University of Tromsø.
- Farkas, Imola-Ágnes (2016). Not All to-PPs Induce Telicity. In Petronia Petrar & Amelia Precup (eds) *Constructions of Identity (VIII) : Discourses in the English-speaking world*. 155-170.
- Filipović, Luna (2007). *Talking about motion: A crosslinguistic investigation of lexicalization patterns*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- Geuder, Wilhelm. 2009. « Descendre en grim pant » : Une étude contrastive de l'interaction entre déplacement et manière de mouvement. *Langages* 175. 123-139.
- Kopecka, Anetta 2009. L'expression du déplacement en français : l'interaction des facteurs sémantiques, aspectuels et pragmatiques dans la construction du sens spatial. *Langages* 173. 54-77.
- Matsumoto, Yo (2003). Typologies of Lexicalization Patterns and Event Integration: Clarifications and Reformulations. In Shuji Chiba & Yoshiko Matsumoto (eds) *Empirical and Theoretical Investigations into Language: A Festschrift for Masaru Kajita*. 403-418. Tokyo: Kaitakusha.

- 守田貴弘 (2008). 移動表現における様態動詞と接置詞の機能: 日仏対照の視点から. 『フランス語学研究』 42 (1), 31-44.
- 守田貴弘 (2011a). 移動表現における様態動詞の分類. 『Résonances: 東京大学大学院総合文化研究科フランス語系学生論文集』 7, 107-113.
- 守田貴弘. (2011b). 移動表現研究における経路と様態の概念: 移動動詞の分類. 『フランス語学研究』 45 (1), 53-61.
- Morita, Takahiro (2011c). Intratypological Variations in Motion Events in Japanese and French: Manner and Deixis as Parameters for Cross-Linguistic Comparison. *Cognitextes* 6. Association Française de Linguistique Cognitive (<https://doi.org/10.4000/cognitextes.498>).
- Morita, Takahiro (2013). Quelle est la Charge Cognitive de l'Expression Linguistique ? : Une Étude Expérimentale sur la Fréquence et sur le Degré d'Intégration du Gérondif dans l'Expression du Déplacement. *Tokyo University Linguistics Papers* 34, 85-96.
- Rey, Alain (dir) (1985). *Le Grand Robert de la langue française : dictionnaire alphabétique et analogique de la langue française*, VI, 2e éd. Paris: Robert.
- Stosic, Dejan (2009). La notion de « manière » dans -la sémantique de l'espace. *Langages* 175, 103-121.
- Stringer, D. (2006) Typological Tendencies and Universal Grammar in the Acquisition of Adpositions. in P. Saint-Dizier. (ed.) *Syntax and Semantics of Prepositions*. 57-68.
- Takemoto, Masashi (2010). Manner-of-motion verbs and subjectification. 『異文化研究』 4, 15-26.
- Takemoto, Masashi (2022). Sur quelques caractéristiques des langues romanes en tant que langues à cadrage verbal. 『独仏文学』 44, 39-51.
- Talmy, Leonard (1985). Lexicalization patterns: Semantic structures in lexical forms. In Timothy Shopen (ed.) *Language Typology and Syntactic Description vol. 3: Grammatical Categories and the Lexicon*. 57-149. Cambridge: Cambridge University Press.
- Talmy, Leonard (1991). Path to Realization: A Typology of Event Conflation. *Proceedings of the Seventeenth Annual Meeting of the Berkeley Linguistics Society: General Session and Parasession on The Grammar of Event Structure*. 480-519. Berkeley: University of California.
- Talmy, Leonard (2000). *Toward a Cognitive Semantics Vol. II: Typology and Process in Concept Structuring*. Cambridge, Massachusetts: MIT Press.
- Troberg, Michelle (2011). Directed motion in Medieval French. In J. Herschensohn (ed), *Romance Linguistics 2010. Selected Papers from the 40th Linguistics Symposium on Romance Languages*. Amsterdam: John Benjamins, 117-134.
- Troberg, Michelle & Heather Burnett (2017). From Latin to Modern French: A punctuated shift. In Eric Mathieu & Robert Truswell (eds.) *Micro-change and macro-change in diachronic syntax*. 104-124. Oxford: Oxford University Press.
- Troberg, Michelle & Justin Leung (2021). On the unified change of directional/aspectual verb particles in French. *Journal of Historical Syntax* 5, 1-76.
- Zubizarreta, María Luisa & Eunjeong Oh (2007). *On the syntactic composition of manner and motion*. Cambridge/Massachusetts: MIT Press.
- Zuercher, B. (2013). *Polysemy and cross-linguistic variation: A study of English and French deictic motion verbs* (Doctoral dissertation, Université du Québec à Montréal).